

令和3年度第1回 流山市環境審議会 議事要旨

日時： 令和3年4月28日（水）14時00分～16時00分

場所： 流山市役所第1庁舎3階 庁議室

出席委員：

朽津和幸委員、金森有子委員、佐藤秀樹委員、和田まつゑ委員、新保國弘委員、和田登志子委員、横田輝雄委員、井上菊夫委員、高橋信行委員、今井泰彦委員

事務局：

大島環境部長、伊原環境部次長兼環境政策課長、阿部環境政策課長補佐、近藤環境政策課長補佐兼環境政策係長、石橋主事、飯田主事

傍聴者：

2名

議題：地球温暖化実行計画（区域施策編）

ア スケジュールについて

イ 基本的事項等について

ウ その他について

資料：

資料1 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定スケジュール

資料2 ストップ温暖化！流山プラン ※平成29年策定の現行版

資料3-1 第1回環境審議会の検討事項(基本的事項等の考え方について)

資料3-2 【素案】流山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)

発言者	要旨
開会 市長挨拶	
井崎市長	国の方でも動きがあるが、地球温暖化対策が今までになく、本気で議論され始めている。 総理が二酸化炭素の排出実質ゼロを目指して計画を発表したが、具体的な計画はまだ作成されておらず、希望を述べられたということにとどまっている。 具体的な努力をしていくことによって、その希望を現

	<p>実に変えていかなければならない。</p> <p>皆様方にはそれぞれの立場から忌憚のない意見をいただき、流山市が将来、着実に地球温暖化に資する様々な仕組みを作り、そして社会をつくっていくことができるように、ご尽力をいただきたい。</p>
地球温暖化実行計画（区域施策編）について（諮問）	
井崎市長	<p>〈諮問書読み上げ〉</p> <p>どうぞよろしくお願い致します。</p>
会長挨拶	
新保会長	<p>4月22日と23日にライブ配信で気候変動サミット2021が夜9時からあったが、ご覧になった方もいらっしゃるかと思う。日本の首相や、アメリカのバイデン大統領、中国の首席も出席した。</p> <p>今回のように、オンラインと対面形式を併用して行う会議は、恐らく環境部では初めてである。</p> <p>一昨日オンライン形式のテストを実施したが、これからもコロナに限らず時間を有効に使うためにも、こういうオンラインの会議も、どんどん増えてくるかと思う。今日オンライン形式で使用しているのは、Zoomというソフトである。</p> <p>国は、MicrosoftのTeamsというソフトをセキュリティの関係で推奨しているが、市町村や県では、Zoomの利用が多いようである。</p> <p>私も仕事では、一番使いやすいということでZoomを使用している。</p> <p>関心があれば、本審議会でもぜひいろんな試みをしていただけたらと思う。</p>
（議題ア）地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定スケジュールについて（資料1）	
事務局	<p>令和4年度の答申に向け、記載した通りのスケジュールでお願いをしたい。</p> <p>そのうち令和3年度には、本日を含めて4回の審議会を予定している。</p>

	<p>途中、11月には委嘱替えがあるが、令和4年度の5月まで、皆様にご審議を続けていただきたい。</p> <p>本日、大枠の部分を皆様にお諮りし、その後、ガスを把握するための検討や推計、目標の設定等、今後の対応策を検討し、素案を作って、最終的にはパブリックコメント等を行い、決めていきたい。</p>
新保会長	<p>事務局より説明のあった策定スケジュールについてご質問はあるか。</p> <p>ご質問がなければ、承認をいただけたということで、次に進めたいと思う。</p>
(議題イ) 基本的事項等の考え方について(資料2、資料3-1、資料3-2)	
事務局	<p>まず今回、審議会の皆様にお諮りするものは、平成29年策定の現行版実行計画「ストップ温暖化!流山プラン」(資料2)の改定であるということである。</p> <p>基本的事項等は、現行計画を引き継ぐような形で、資料3-2を案として、計画の基礎となる大枠の部分を皆様にご審議いただきたい。</p> <p>本日は資料3-1に挙げた3点をご審議いただきたい。</p> <p>「①対象とする温室効果ガス」については、現行計画と同様、二酸化炭素としたいと考えている。</p> <p>理由としては、温室効果ガスのほぼ全量を二酸化炭素で占めており、資料2の現行計画によれば、2013年時点でその割合は99.2%となっているためである。代替フロン等については、把握や算定が困難であることから、次期計画でも対象とせず、二酸化炭素のみを対象としたいと考えている。</p> <p>「②計画期間、目標年度、基準年度」について、計画期間は、現行通り2030年としたいと考えている。</p> <p>目標年度については、国や世界の動向も踏まえ、長期目標、2050年度を新たに設定し、短期目標は2030年度としたい。</p>

基準年度については、国の地球温暖化対策計画と合わせる形で、2013年度とすることとしたい。

現行の計画は、政府の温室効果ガス削減目標の達成に向け、計画期間を2030年度としており、次期計画においてもこれを引き継いでいきたい。

また、国は2050年の二酸化炭素の排出量実質ゼロに向け、2030年度の新たな目標を46%としている。これを受け、本市においても、2050年排出量実質ゼロを目指すことについて検討していきたいと考えている。

さらに、長期の目標の実現に向けては、短期目標の再設定が必要となってくる。

基準年度については、現行の計画では、第1期計画からの継続性を考慮して、2007年度としていたが、次期計画では、国の目標達成を意識した計画となることから、基準年度も国の目標と合わせたい。

「③CO₂の算定方法」については、現行計画で採用している按分法を継続したいと考えている。

理由としては、近年の電力自由化の影響により、供給会社から実績値が取得しにくくなっていることが挙げられる。

環境省の示す策定マニュアルにおいても、部門の排出量やエネルギー使用量を按分する方法が標準的手法とされている。

以上が大枠の考え方になる。これらの考え方を落とし込んだものとして、次期計画案が資料3-2である。

最初に市長の挨拶があり、現行のものを踏襲するような形ではあるが、1ページには「第1章 基本的事項」ということで、順番に整理をしている。

目的と背景は、そちらに考え方を落とし込んでいくようなものになるが、状況によっては、文言が変わってくると考えている。

計画の位置付けについても資料の通りである。文末に

	<p>は、「気候変動適応法第12条に基づく、地域気候変動適応計画を内包すること」とすると記載している。</p> <p>計画の位置付けについては、模式図を2ページに示している。続いて、対象地域、対象とする温室効果ガス、計画期間、基準年度等、先程の考え方をそのまま記載している。</p> <p>3ページでは、体制、進行管理、計画の見直しについて触れており、現行のもの引き継ぐような形になっている。</p> <p>ここまでが、大枠の考え方ということで、皆様にお諮りしたい部分になる。</p>
新保会長	<p>事務局から説明があった事項について、質問等があれば、挙手をしてご発言いただきたい。</p>
井上委員	<p>会長からもお話があったとおり、世界の首脳が集まって会議を開催したことからもわかるように、やはり世界的に危機意識が高まっていると思う。</p> <p>流山市でも、こうした流れに沿い最善の努力をすることが求められている。破壊した環境をそのまま、次世代・孫の世代に引き継いでいってしまうのは、問題があると思っている。</p> <p>基本的に二酸化炭素が一番多いので、二酸化炭素を対象とすることで問題ないと思う。</p> <p>2番の計画期間、目標年度、基準年度は、事務局が示したもので問題ないと思う。理由としては、主要国が集まった世界サミットが行われている中で、そこから外れて流山市だけで独自のことをやるのは、的が外れているのではないかと思う。</p> <p>按分法についても問題ないと思う。</p>
今井委員	<p>二酸化炭素削減は非常に大事なことだが、やはりなかなか難しいことでもある。</p> <p>基本的な考え方として、先程市長は、国の目標は希望的な数値で、積み上げがいいのではないかという話があったと思う。そこがやはり一番大事なところで、これか</p>

	<p>ら目標を設定していく所だと思う。</p> <p>国の方針に沿っていくのか、どちらかというところあるべき姿というものに近くなる積み上げ法でやっていくのか、その辺はどういうお考えか。</p>
事務局	<p>事務局としては、積み上げ法だと積算の根拠等の取得が難しいため、按分法で行きたいと考えている。</p> <p>ただ按分法だと、地域が努力しても、その数値が反映されないというデメリットがある。可能な部分については積み上げ法も検討できればと考えている。</p>
今井委員	<p>少し言い方が悪かったのかもしれないが、質問したかったのは、目標値についてである。目標値をどういう数値にするかということで、国の46%を重視して、それに沿った目標にするのか、或いは、我々は実際にここまでできるという積み上げでやるのかということの方向性が決まっていたら、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>国の目標の46%を目指して行くべきだと考えている。</p> <p>それに対してどうしていくか、ということが一番重要だと考えている。</p>
新保会長	<p>目標値をどう扱うかという提案があったが、例えば資料3-1の基本的事項の考え方の②のところに、計画期間と目標年度と基準年度があるが、ここに目標値が入っていないと画竜点睛を欠くような感じがする。</p> <p>事務局の方で整理して、国がどこまでどんなふうにして考えていっているのかということを含めて、流山市では目標値をどう実行計画に入れていくかということ、次回までにできれば提案いただければと思う。</p>
横田委員	<p>前回の会議で、クリーンセンターが立案している廃棄物処理計画、それから環境政策課が立案している事務事業編、その整合性に問題がある旨、意見を出させていただいた。</p> <p>そのことについて、合同会議を開いたり、互いの意見をまとめるような体制づくりを、有識者の金森委員が申</p>

し上げたと思うが、そのことについてはどういう結論が出ているか。

環境政策課とクリーンセンターの意思疎通が重要なのであって、クリーンセンターで管理しているデータが、環境政策課で入手できないということは問題ではないかと思う。県や国レベルでも同じようなことが行われているが、せめて流山市は、クリーンセンターと横で連携されているという状況を、国とは違うレベルで考えてもらいたいと思う。

最近国が新たに削減目標を46%とした。

あくまで廃棄物の焼却由来の数値は、事務事業編の二酸化炭素排出量の構成の65%がごみなので、ごみの焼却を議論するのは当然のことだと思う。

他の市では、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロ宣言を行っている。

流山市はできないことは宣言しない、やらないということが、この文章からは見えるような気がする。そういうことではなく、再生可能エネルギーの購入推進については努力していただきたい。一般家庭の利用者が、温暖化防止の取り組みに参加できるように、脱炭素の再生可能エネルギーを選択できるように、市が率先して紹介していただきたいと思う。

また、ごみの指定袋が導入され、恐らく賛否があったかと思う。10月には販売を始めて、令和4年の4月には実行するというような計画が出ており、指定目的にごみの分別・削減に非常に効果があると謳っているので、導入前と導入後、この数値をはっきりと結果に示していただきたい。

事務局	<p>流山市の事業の中のほとんどが焼却施設からの二酸化炭素ということは確かである。</p> <p>廃棄物処理の計画に全体が引きずられるところがあるので、分離をしようかどうかというところはあったが、二酸化炭素を排出する事業所の核を外して計画を策定するということはできない。区域施策編ということで、市域全体の市民の皆様のご協力をいただきながらやっていくものなので、クリーンセンターとの連携について、情報共有できるところは強化していきたいと思う。</p> <p>指定ごみ袋に関しては、市民の皆様をお願いをした部分があるため、ビフォーアフターをきちんと説明し報告できるよう、今現在も、導入後に向けて比較ができるような数値の取り方を検討している。</p> <p>ご指摘いただいた通り、データを精査して行きたい。</p>
高橋委員	<p>先程からの説明を聞く限り、やはり一般市民に対しては、ごみの減量化の影響が一番大きいだろうということは何える。</p> <p>生ごみは何%減らす、紙ごみは何%減らす等、どんなことをやると何%減る等といった、ある程度具体的な数字をぜひ今後示していただきたい。</p> <p>全体の目標で2050年に実質ゼロ、2030年に46%削減と言われても、今ひとつピンと来ないのが一般の市民の感覚であると思う。具体的にどんなことをやると何%という、目標等を出していただければ、削減に対して取り組みやすいと感じた。</p>
金森委員	<p>資料3-1の②のところは、基本的には国の目標を意識して決める必要があるかと思う。</p> <p>2030年度に関しては、先日首相からも46%という数字が出てきて、さらに発言の中では、なるべく50%減まで目指したいというところもあったので、絶対に46%減は達成したいという強い意思の表れではないかと思う。</p> <p>流山市についても、それぐらいの値は目標値としてお</p>

	<p>くべきだと思う。</p> <p>2050年に関しても、排出量実質ゼロということで脱炭素社会にすることを首相が宣言したので、これについても今の方針通り、流山市もこれを目指した方が良くと思う。</p> <p>2050年に国で実質ゼロを目指すというのは、純粋に排出をゼロにするのはかなり難しいので、温室効果ガスの排出枠の取引等使える制度を使った上での実質ゼロを目指すという結果に、恐らくならざるを得ないのではないかと思っている。</p> <p>市単位で実質ゼロを目指すということは、排出が純粋にゼロになりきらなかった場合に、排出枠の取引等を使ってでも、市として実質ゼロを目指すのか、そこまで考えているのか意見を伺いたい。</p> <p>③のCO₂の算定方法は、按分法にせざるを得ない部分があるのは承知しているので、それで良いかと思う。ただ、私や私の所属する研究機関等、自治体の算定に関わっているものは、もっと実態を反映した方法があると良いと常々思っており、機会があれば国等にも伝えている。簡単には出てくるとは思わないが、そういう数値や新しいものが出た場合は、按分法に固執せず、ぜひより良い方法や数値を利用することを検討していただければと思う。</p>
<p>和田(登)委員</p>	<p>基準年度を2007年度から2013年度に変えるということについては、国に合わせるとのことなので賛成する。</p> <p>ただその集計上、2007年でやってきたものが変わっていく時に、移行がスムーズに行くように、そして誤解が生じないような表記をして、市民にわかりやすく説明していただきたい。そしてなおかつ、以前は2007年度を基準に26%削減としていたが、これからは2013年度を基準に46%か50%か目標を決めてくわけで、非常に高い目標になっていくので、本気になって市</p>

	<p>民が取り組まないと達成できないということを、市民に明確に伝え、協力が得られるような、市民がやる気になれるような推進方法を取っていただきたいと思う。</p>
新保会長	<p>先日、首相が2030年度に国の目標を46%とするといっていたが、国の場合はまだ内訳が出ていない。</p> <p>恐らく、資料1の策定スケジュールの「5 目標設定」のところは、削減の内訳を決めていく作業ではないかと思うが、スケジュールでは11月の頭には、それができているということになってしまう。</p> <p>11月にCOP26があるが、国はそれに合わせて、いつ頃までにその配分を作るのかもしご存知であれば、金森委員に教えていただきたい。</p>
金森委員	<p>会長のご質問の意図は、46%減の積み上げの根拠が示されるかどうかということでしょうか。</p> <p>研究者が出すことは、十分に考えられるかと思う。例えば、我々の研究チームでも、2030年度に46%減、2050年度に脱炭素というところで、計算を進めていく形になっているため、出すことになると思うが、それが国の正式な積み上げの根拠になるかどうかは、何とも言えないため即答できない。</p>
新保会長	<p>資料1のスケジュールの「5 目標設定」はそういう議論が入ってくるのか来ないのか、事務局にお伺いしたい。</p>
事務局	<p>11月にこちらで検討したものを、また審議会にお諮りすることになる。そこでまた、議論をいただければと考えている。</p>
新保会長	<p>審議会には数字や内訳が出るのか。</p>
事務局	<p>数字を出していきたいと考えている。</p>
井上委員	<p>先程賛成と伝えたが、補足したい。</p> <p>数字自体は、国と整合性を保つことが必要だと思う。世界にしても日本にしても、すでに排出量を下げているのだから、そこからまた同じような率を下げるのは無理だと新聞等で聞くが、それであきらめてしまうのもどう</p>

	<p>かと思うので、やはり努力してみるということだと思います。</p> <p>流山市の構造は、国とは恐らく違うと思うので、国がやってることをやってこの数字が達成できないということも、当然有りうると思う。目標が達成できなかったときには、努力したけれどこういう理由で無理です等、説明責任を果たしていくべきだと思います。</p> <p>早め早めに市民に対して何故できないのかという説明をしていく心がけが必要だと思います。</p>
新保会長	<p>人口増加の分母をどういうふうに扱っていくつもりなのか、事務局からお聞きしたい。人口増加が目標の達成率に影響を及ぼすようなことは、ありうるのか。市の様々な構想の中で、人口は、あと4～5年程度でピークを迎え、その後は下がっていくという予想があるが、その辺をどう考えているのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>人口については、市で将来人口推計を作成しており、これに基づいて計画を作成していくしかないと考えている。</p> <p>按分法を採用する以上、二酸化炭素の量は、国もしくは県の地域としての値を人口割して算定される。</p> <p>この方法は、全体の数を人口で割り返すため、どうしても市の努力が反映しづらい。何か指標がないかというのは、事務局でも考えている。</p> <p>2030年に46%、2050年に実質ゼロと国は言っているが、それは同じ直線状にあるものではなく、むしろ流山市の場合は、実質ゼロの方が、今の人口の問題が変われば再生可能エネルギーに代替をしていくこと等、市の努力によって実質ゼロへの歩み寄りはできると思う。</p> <p>ただ指標については、国は数字を言っただけで、取組等については言及していないため、そこについては、2030年の二酸化炭素の総量の削減と2050年の実質ゼロと両方を見据えた数字の取り方、努力の仕方、そこ</p>

	<p>について何か知見がないかということ、コンサルを通じて調べていく。</p> <p>皆様からも、何か良いお知恵があったら出していただければ大変ありがたい。</p>
和田（ま） 委員	<p>主婦の立場として、ごみの問題は本当に難しいと思うし、一人ひとりがどのようにすればいいのかわからないが、考えてやっていきたいと思う。</p>
朽津委員	<p>基本的な方向性としては、国が明確にしようとしているわけで、具体的な情報に基づいて市のレベルで話し合うべきことは、それを具体化する段階で流山市の事情をどう吸い上げるかということではないかと思うので、基本的な方針としては、特に申し上げることはない。</p> <p>当然人口がどういうふうに見積もられているかというデータと併せて、人口増加しているのであれば、その分は仕方がないものとせざるを得ない部分もあると思うが、かなり国の基準が厳しい上、アメリカの政府はもっと厳しいことを言っているので、むしろこの環境審議会でも議論すべきことというのは、市の事情でどういうところに気を付けていったらいいかという具体論ではないかと思ったがいかがか。</p>
事務局	<p>おっしゃる通り、地域施策編となるため、いかに市民の皆様にお伝えし、協力をしていただくかというところになると思う。</p> <p>そういう部分に関して、事務局の方で知恵を絞っていききたいと思う。</p>
朽津委員	<p>一般的な啓蒙活動はもちろん重要だと思うので、どうして国や世界各国がこういうことを言い出しているのかということ、わかりやすく流山市民に伝えていくかということ、それも抽象論だけでなく具体的にこういうふうに市民の協力が必要であるということまで訴えるべき。</p> <p>もう少し具体的になった段階で、事務局からご提案をいただき、環境審議会でも意見交換をすることが有効なの</p>

	<p>ではないかと思う。</p>
佐藤委員	<p>いただいた資料の考え方に異論はない。</p> <p>市民一人ひとりの行動が、二酸化炭素の排出削減に繋がっていく。</p> <p>特に流山市は若い世代の流入も多い地域でもあり、20代・30代の若い世代は、地球環境の問題やサステイナブルな社会づくり、SDGsに非常に関心を抱いている人が多いと思う。</p> <p>実現可能な数字を設定していくことはもちろんだが、具体的なプランを作っていく際には、こういった人たちを巻き込んで、若い人たちが主導していけるような、二酸化炭素削減に向けた取り組みが良いのではないかと思う。</p>
金森委員	<p>先程発言した通りだが、そもそもこういう自治体単位でこういう計画を立てることの最大の意味は、国全体で何か考えても、実際に行動に移すのは自治体規模であるという背景がある。</p> <p>大変だが自治体別に実行計画を作っていくという流れで、市の実情を市民や市職員が一番わかっているはずなので、それを踏まえた上で、流山市ができる削減対策を考えていくことがとても大切だと思う。</p> <p>それが非常に難しいこともわかるが、今回、削減目標が厳しい値になっていっているので、削減するために、様々なアイデアを出して頑張っていかななくてはならないと思っている。</p>
新保会長	<p>流山市内で、温暖化防止の市民活動をやっている「温暖化防止ながれやま」という団体が、市役所と共同で事業をしているようだが、お子さんや家族を対象としたイベントの例があれば、ご紹介いただきたい。</p>

事務局	<p>年に4回、温暖化防止ながれやまと市民環境講座を実施している。環境に関心を持ってもらうため、昨年度は、ペットボトルで小さなソーラーカーを作る講座と、ソーラーパネルを利用したLEDランタンを作る講座、環境に関する映画を親子で視聴していただく環境映画会、そして環境パフォーマーのらんま先生による環境パフォーマンスショーを実施した。</p>
横田委員	<p>私は温暖化防止ながれやまの委員として活動しており、一番はじめにお話しのあったソーラーカーの担当も務めた。</p> <p>我々は、南米に伝わる「ハチドリのひとしづく」という話の、ほんの1滴のひとしづくが火事の防止に役立つという内容から、我々にはそれしかできないので、できることをやっていこうということをモットーに活動している。</p> <p>市民にも、自分が今、温暖化防止のために何ができるかを考え、できることの1つをぜひ実践していただきたいと思っている。</p> <p>大きな目標としては、一般市民が再生可能エネルギーを選択すること。今1kWあたり2円くらいで少し高額なので、そういった高いものを選択していただくために、例えば市が何らかの形で応援したり、逆に炭素を排出する企業にカーボンプライシング等、何か負荷をかけたり、そういう体制をしっかりと根本から構えれば、二酸化炭素は確実に減らすことはできる。</p> <p>着実に、後退ではなく前進している、というようなことを示していきたいと思う。</p>
新保会長	<p>議案2について、皆様から様々な意見や提案をいただいたので、採決にうつりたいと思う。</p> <p>基本的事項の考え方の「①対象とする温室効果ガス」について、「②計画期間、目標年度、基準年度」について、「③CO2の算定方法」について、この3つについて皆様の承認をいただけるか。</p>

	<p>それでは承認いただけたということで、次の議題に進めていきたいと思う。</p>
<p>(議題ウ) その他について</p>	
事務局	<p>次回の審議会の日程について、資料1のスケジュールにも記載のとおり、7月頃の開催を考えている。</p> <p>候補日等ご相談しながら設定したいと思う。日程が決まり次第、ご案内する。</p>
新保会長	<p>今、事務局より説明のあった次回開催日程についてもよろしいか。</p> <p>それでは、本日の議題は全て終了したので審議会は終了とする。</p>
<p>閉会</p>	